



前列右端がマザージャパングループのマネジング・パートナーを務めるティエリ エマニュエル氏。国際色豊かな社員は平均年齢36歳と若い。オープンな企業風土で国籍や文化の壁を越え、監査・FASビジネスへの熱い想いを共有している



半田氏、大矢氏のようにキャリア、経験を積んだメンバーもハンズオンで携わり、スピード感ある監査・FAS業務を推進する

世界の89の国と地域、 300事務所に2万3000人の プロフェッショナルを擁す、 仏国発祥の国際会計事務所 Mazars Japanグループ



vol. 47
取材・文 / 佐々木正孝
撮影 / 内海明啓

は1992年に進出し、現在は監査法人、FASなど6法人がマザージャパングループとして事業を展開している。そんなルーツもあり、クライアントの9割以上が外資系企業だ。社員の3割はフランス、イギリス、アメリカ、中国、タイ、マレーシアなど外国籍。英語・日本語など、全スタッフが2カ国語以上を駆使でき、多国籍のクライアントを支援するクロスボーダー案件を得意としている。

Mazars 有限責任監査法人代表社員の大矢昇太氏に典型的な一日の動きを教えてもらい、そのクロスボーダーぶりをのぞいてみよう。

「まずはマザー・フランスのフランス人パートナーとオランダ人弁護士と共に、某日系企業にてフォレンジック業務を実施した後、ウクライナのマネジング・パートナーと、同国に進出する日系企業のIPOについて情報を共有。さらに、中国大手メーカーの監査責任者である中国人パートナーと電話でミーティング……時には主導し、時にはアシストし、外国オフィスのスタッフと協同で業務にあたるのが日常です。国際的な環境

フランスの会計事務所からスタートし、現在は世界89の国・地域で監査、FAS、税務及びアウトソーシングサービスを提供するマザーグループ。日本に

業にもフォーカス。上場会社の監査にも注力していく構えだ。

「マザーグループ本体がある欧州で強い影響力を持つグローバル企業が、日本への進出を積極的に検討しています。それを支援するためには、日本でも上場会社の監査をこなせるだけの基盤が求められるのです」(大矢氏)

課題の達成を目指すため、グループとしてさらなるスタッフ増強を目指していく。様々な企業が積極的な海外進出を図り、あらゆる業界がグローバル化していく現代。グローバルな監査、アドバイザリー業務を提供していくうえで、スキルとパッションを併せ持つ人材を求めたいと二人は口を揃えた。企業体としても、そして個人のプロフェッショナルとしても、グローバル

に学び、業務にあたるネットワークは大きな可能性を秘める。「日本では公認会計士は非常に難易度の高い資格ですが、これは世界のスタンダードではありません。土業の資格はあくまでチケットです。USCPAであっても日本の公認会計士であっても同じ。資格を取ったその先を見据え、会計の世界に飛び込んできてほしいですね」(大矢氏)

「ツールもネットワークもあり、お客さまもいらっしゃる。ノーズでグローバルなビジネスを展開できるポテンシャルがマザーグループにはあります。グローバルなプラットフォームを使ってやりたい仕事を探している。そんな起業家精神を持った方には面白い環境ではないでしょうか」(半田氏)

に身を置きたい人には大変やりがいがあるといえますね。グローバル企業にキヤッチアップし、付加価値を与えられる会計事務所である——私たちにそんな自負があります」

自国ファームの利益だけを優先することはせず、マザーグループは世界全体をワンファームとして考え、最適なサービスを提供するのが基本スタンスだ。この取り組み姿勢が各国のオフィスとの密接なコミュニケーションにつながり、結果として高い顧客満足度とリピート率をもたらす。グローバルネットワークを生かし、最先端の知見、ソリューションを吸収できるのも大きな強みだ。

「マザーでは、Webを使った研修プログラムはもちろん、会計、税務、FASといったプロフェッショナル向け研修を開催し、日本からも毎年スタッフからパートナーに至るまで多くのメンバーが海外研修に参加しています。この研修で最新知見を共有して日本で横展開できるだけではなく、各国のスタッフとも密な付き合いができます。フェイス・トゥ・フェイスのコミュニケーションにより、クロスボーダー案件もよりスムーズに進められるようになるのです」(Mazars FAS株式会社代表取締役・半田高史氏)

マザーグループのオフィスでは英語が公用語として飛び交うが、全員が入社時に堪能だったわけではないという。語学スキルが採用の条件にはならない、と半田氏。

「日常業務において、英語でのメールのやりとりや外国人との電話会議やミーティングなどを重ねるうちに、監査、税務、FASビジネスに必須の英語力は自然に身につけられます。また、マザーには『インタナショナルモビリティプログラム』とい

う制度もあります。これは2年以上の勤務歴があれば、希望する海外オフィスに移籍できるというもの。日本から欧州やアジアに向かったスタッフがいますし、カルチャーに惹かれて海外からマザージャパンに来るケースも少なくありません」(半田氏)

グループ内では監査からFASへといったジョブローテーションも可能で、国際的な転籍も視野に入る。マザージャパングループは社員の6割が女性だが、育児、産休などの福利厚生を充実させてきた。継続してキャリアを積んでいける基盤の整備には余念がない。

ゆるやかな空気が流れるオフィス。社内のコミュニティは活発で、フットサルチームの活動、有志によるチャリティランなど課外活動に参加するスタッフも多い



Mazars 有限責任監査法人 代表社員
大矢昇太(おおや・しょうた) / 慶應義塾大学法学部卒、公認会計士。大手監査法人を経て、準大手監査法人にて海外を含め11年間パートナーを務める。2018年Mazars グローバル・パートナー就任。青山学院会計専門職大学院客員教授(元)、著書・セミナー実績多数。(言語:日・英・泰)。

Mazars FAS株式会社 代表取締役
半田高史(はんだ・たかし) / 慶應義塾大学商学部卒、公認会計士。大手監査法人に15年在籍、その後外資系投資ファンドを経て2011年に独立、14年にMazarsと統合しグローバル・パートナー就任。複数の社外役員を兼任。(言語:日・英・西)。今年4月、サハラ砂漠マラソン250km完走。



Mazars Japanグループ
所在地 / 東京都港区赤坂2-11-7 ATT新館11階
TEL / 03-6823-6600
https://jpn.mazars.jp/
世界各国で展開する監査・アドバイザリーグループの日本法人。外資系企業の支援が中心だが、近年は日本企業にも実績がある。